

## 次期一般廃棄物最終処分場について 市民説明会 質疑応答

日 時：令和4年12月1日（木） 午後7時00分から午後8時45分まで

場 所：相武台公民館 2階大会議室

### 【説明内容】

(1) 現一般廃棄物最終処分場の現状について

家庭ごみの処理の流れや現最終処分場の役割、埋立物、浸出水対策について資料に基づき説明を行った。

(2) 次期一般廃棄物最終処分場の候補地選定について

現最終処分場は令和19年度途中まで埋立てが行える見込みであるが、それ以降の最終処分場を整備するため、取組みを進める必要があること。昨年度、候補地選定審議会から複数の候補地の答申を受けたため、審議経過などについて、資料に基づき説明を行った。

### 【質疑応答】

◎市民 ●清掃施設課

◎ 仮に令和19年度からの稼働となった場合、建設工事は何年程度かかるのか。

● 設計を含め、4、5年程度かかることが想定される。

◎ 1次評価の選定にあたっての評価上の数値について、どのような基準で算出されているのか。評価項目は物理的なものであり、地域の気持ち、住民感情の項目が入っていない。麻溝台候補地8・9については、地域からすると評価は0点である。現最終処分場について整備から現状まで知らないことが多い。

先日見学会に行ったが、最終処分場は広大で驚いた。市民が雑な分別をしていることは反省すべきだが、このような施設を再度整備することや、見学したバスのタイヤを洗浄する所を見ると、なにか危険なものが埋立てられているのではないかと感じてしまう。浸出水の臭いにも違和感を感じたことから地域感情の評価点は0点である。

また、安全性について、原子力も安全と言っていたが想定外の災害が起こったこともあり、将来の安全性には疑問がある。様々なリスクがある中で現最終処分場があることや嵩上げに対する協力を地域は既に行っていることを考えると、次期最終処分場については、リスク分散という観点から、緑区への設置をお願いしたいと思う。

最後に、審議会の委員には市民が入っていないのはいかがなものか。

● 評価項目の数値については、各項目を3段階で評価をしている。例えば、「土地利用」については、Cは「土地利用がない」、Bは「一部土地利用がされている」、Aは「大半が土地利用されている」という観点で3段階に分け評価している。

その他の項目については、後日一覧になった表をHPに掲載させていただきたい。

また、評価については、審議会において主に物理的に整備できるかという基準で評価が行われている。

地域の方の想いや感情は、本日のように、現在行っている説明会等でお伺いしていきたい。

● 見学会の時の浸出水の臭いについてだが、大きな水槽に水を溜めているため感じられたと考える。昨年度に処分場の生活環境影響調査で敷地境界の臭気調査を行い、悪臭防止法上は臭気指数15以内と定められているが、「臭いなし」の結果であった。渴

水期等に水槽の掃除を行うので、改善されると考えている。

- バスのタイヤの洗浄についてだが、危険であるから洗浄しているのではなく、国の技術的な指針に基づき設置をしているものである。処分場に入った車両について念のためにタイヤを水洗いして場外に出るという理由である。
- 審議会の委員に住民が入っていないという意見だが、審議委員を決める時に2度の公募を行い公募委員が1名入っている。評価項目に地域の感情が入っていないという意見だが、まずはどの場所に整備できるのかという物理的条件の下に公平な審議を行ったため入っていない。津久井地区の説明会でも、地域のことを考えた候補地の選定がされていないと指摘があったが、市も審議会でも地域の理解が一番重要だと認識しているので、現時点では0点だのご意見をいただいたが、少しでも点数を上げられるように説明していくのが我々の仕事だと思っている。これは他の地区でも同じである。

具体的な安全対策だが、説明の中では現在の最終処分場を例にしたが、次期最終処分場は候補地により地形等も異なるため、その土地に合わせた対策を採ることや、次期の整備までにはまだ期間もあるので、整備する時点での最新の技術を取り入れていくよう検討したい。

全国には、約1,600の最終処分場が整備されている。全国レベルの安全対策を踏まえた最終処分場を整備していきたい。

リスク分散についてだが、麻溝地区からも同様の意見をいただいている。現時点で候補地の優先順位はなくフラットに捉えているが、またここかという気持ちは受け止めたい。

- ◎ 安全対策について、様々な対策を講じていることは承知したが、想定外な災害などで漏水した場合、例えば、人体にどんな影響があるか、土地が汚損され農作物が育たない、マスク無しでは生活出来ない等、どのようなリスクや問題があるのか教えてもらわないと不安である。整備することによるデメリットは何だと考えられるのか。

また、施設配置については、都市計画など含め長期間な観点で検討をした方がいいのではないかと。例えば今回候補地8を整備したとして、次は候補地9を整備するとすると、50年間から100年間はこの場所で整備がされてしまう。

最後に、2次評価の件で、整備費用を算定しているが、住んでいる住民に対しての安全対策費などが検討されていない。住んでいる人が多いほど対策費やランニングコストは高額になると考える。今の経済条件の算出方法だと候補地1は高額だと感じるが、それらを反映したら逆転することもあると考えるので、人が居ないところに数百年単位という計画で考えたほうが良いのではないかと。今のままでは住民の理解は得られないと考える。最終処分場の必要性については重々承知しているが、施設の配置については、リスク分散を検討いただきたい。

- デメリットについてだが、処分場は名称等からイメージが良くない施設であり、ずっと処分場があることで地域の方にご心配をかけてしまう。それから整備する場所により自然環境、動植物、水源への影響や災害時はその規模によるがリスクは否定できないこと等があると考えている。
- ◎ 確かに負のイメージ等もあるが、住民に直接的な影響がある部分、衣食住が影響なく維持できるのかという事が聞きたい。
- 漏水についてご意見をいただいたが、現行の安全対策では漏れが無いように、遮水シートや遮水工、水位差を場外と常に4~5m程保つことで、場外から場内にしか水が流れないように対策をしている。万一漏れたとしてもしばらくの間は漏れ出ない設計を行っており、その間に十分に対応できると考えている。その場合の対策として、遮水工の外側に再度遮水工を設置すること等が考えられる。浸出水が漏れた場合の影響だ

が、灰に重金属が含まれているため、地下水を飲料している場合、長期間大量に摂取しつづけると健康への影響が生じないとは限らないため、速やかに対策を講じる。

- ◎ そういった具体的な内容をもっと知りたい。
- 現最終処分場においても何重もの対策とあわせ毎月地下水の測定を行っており、これまで異常値が出たことはない。停電時は、浸出水がポンプアップできなくなり、処分場内に雨水が溜まり溢れてしまうリスクがあるが、そういったことも想定し、外に漏れないよう運用をしている。
- ◎ 安全対策をすればするほど危ないと感じる。全く問題ないのであれば想定外で済ますのではなく、示してほしい。
- ◎ 大規模な地震が起きた場合に遮水シートは破れないのか。万一破れて、浸出水が流出した場合、人体にどのような影響があるのか。住民はどういった対応をすればいいのか。流出しても何時間は耐えられますとか、飲料水は飲めなくなるのでタンクを用意して置いてくださいとか、そうした具体的な対応策を知りたい。安全ですという説明は不信となる。そういった対策を加味すると、根小屋地区の費用と大差はなくなるのではないかと考えている。
- ◎ 浸出水は、どのような成分が含まれているのか。例えば、ダイオキシンやカドミウム等、そういったものがどのくらい入っているのか教えて欲しい。万が一、漏れ出したときに人体にどういう影響を起こすのか知りたい。そういったものに対する対策について明示いただきたい。
- 浸出水の水質についてだが、鉄やマンガン等重金属を含め 50 項目程度の水質の分析を行っている。浸出水の特徴として、主に塩の主成分である塩化物イオンやカルシウムイオンが多く含まれている。その他、微量ではあるが重金属であるマンガン、銅等が検出されている状況である。検出されている値だが、下水道放流基準の値と比較するとマンガンのみ基準値と同程度であるが、浸出水は水処理を行った後下水道へ放流しており、処理後の水は基準値を満足している値である。
- ◎ その浸出水を飲料したらどうなるのか。
- 飲料することの無いよう対策を行っている。仮に飲料した場合だが、重金属はすぐに影響はないが、長期に渡り大量に飲み続けた場合に健康への影響が絶対に生じないとは言い切れない。
- 心配されるのは理解する。通常は浄水場で処理された水を飲んでいるので、自然に流れている地下水を長期にわたり大量に飲み続けることは無いと考えるが、そうした場合でも状況に応じて速やかに対策を講じる。
- ◎ 飲まなくても直接流れてきたものを触ったらどうなるのか。
- 処理前の浸出水について、水処理をしなくても下水道へ流せる水準の水なので、例えば触ってやけどするなどというような水でない。
- ◎ 地震で水道管が空になり、その水道管に浸出水が入りこみ体に入り込む危険はあるのではないかと。そういった想定外の状況を想定して住民はどうすればいいのか。それらに対策する費用は整備費用に入っていないのではないかと。
- 津久井地区からも神奈川の水源として、水処理について心配の声をいただいている。そういった所に心配があると思うので、想定外の時に何ができるのかを検討していきたい。
- ◎ 候補地 9 については、2 次評価で「土地利用」の評価が A となっているが、隣地は麻溝台・新磯野地区整備推進事業の対象地となっており、市長は将来、産業を盛んにしていくエリアと話をしているのに、処分場を整備することは不適格だと考える。南清掃工場の建替えの際に地域住民は不安を感じ、この地域に市内全てのごみ施設が集まると危惧していたがそのとおりになっている。いくら遮水シートが優れているから

とって72万人のごみを全てこの地域で担うのはおかしい。このために溶融炉を入れたかと思うと腹立たしい。今は利用されていないが、市が開発しようとしている地域に整備するのはおかしい。

また、遮水シートの材質について伺いたい。

- 遮水シートの材質については、基本的にはゴムでポリプロピレンシートとなる。シートの周りは不織布で保護をしている。
- 今回の説明会を通し、発展が見込まれる土地の隣接地に整備することやリスクの分散について、地域の皆さんの想いや意見が多くあると改めて認識した。そのようなご意見も検討材料としていきたい。

◎ 安全対策に絶対は無く、いくら説明されても納得はできない。安全対策を前面に説明することはやめた方がいいのではないか。

水処理だが、処分場に雨水が入るからなのか。雨水が入らないような整備をすればよいのではないか。処理施設についても漏れないようにポンプで遠くまで運び処理すればよいのではないか。

候補地決定のための評価についてだが、点数で住民をごまかそうとしているのではないか。評価の仕方がおかしいと思う。3段階に分けて評価をしているが、小学校の通信簿でさえ5段階にしている、3段階の評価なんて学者を入れて行う評価ではない。

また、最終候補地を決定するための評価項目は決まっているのか。住民説得よりも必要な絶対的な評価項目があるようであれば、早めに聞いておきたい。

- 雨が入らないような整備についてだが、埋立物には重金属が入っており、雨水と空気により埋立後も含め安定化を行っているので、雨水は必要である。

◎ そんな危険なものを住民のそばで行うのはおかしい。清掃工場等で処理すればよいのではないか。

- 浄化の方法は様々だが、現在の最終処分場は雨水を利用した方法である。全国的には雨水を遮断する屋根で囲うクローズド型という方法もあるが、安定化の原理は同じである。そういったところに不安があるということは認識した。

- 評価項目についてだが、多数の候補地の中から、より良い場所を選定するために優劣を付けるということではなく、全市域でも9箇所しか候補地がない状況であったため、物理的に整備が難しいものを除外していくという評価を行っている。

◎ 審議会で評価は行ったのか。また評価項目の点数は10点満点だが、3段階なら3点満点でいいのではないか。また候補地8の土地利用状況の評価だが、C評価ではなく99%利用されているから0点のはずだ。現場は見に行っているのか。土地を利用されているのに3.3点も配点があるのはおかしい。

◎ 10項目を評価し10点満点ならわかるが、これはごまかしの数字だ。審議会の先生がこんな評価をするのはおかしい。先生方がなにを考えているかわからない。それに気づけない市もおかしい。

- ご批判は受止めるが、委員の方々に評価項目や方法について審議が行われ決定されたものである。

◎ こういったデータを提示するから信用がおけなくなる。10点満点なのに比較項目が3個しかない。データの信用性がない。これで候補地選定されても納得できない。現場を視察し査定した結果が評価点数です、と明示してもらえれば安心して信じられる。

- 先生方も現場を確認したうえでの判断であることはお伝えしたい。

◎ 審議会の5人の委員を呼べばいい。リモートで聞いてもらえばよいのだ。

以上